

●特設講座 S-2 モーツァルト・サブリ〜心に効く、頭に効く〜

下記の各木曜日 13:00～14:25 全5回

日 程：10月19日、10月26日、11月2日、11月9日、11月16日

会 場：聖徳大学 10号館 14階（予定）

講 師：高松晃子、村井靖児、水垣玲子、泉靖彦、山本まり子（リレー方式）

受講料：7,500円 ※SOAは会員制のため、新規受講の方は、入会金5,000円（70才以上の方・卒業生は3,000円、3年間有効）が別途必要です。

モーツァルトとその音楽は、古今東西の社会でどのように受け入れられ、影響を与えていったのでしょうか？ ヨーロッパと日本、過去と現在といった様々な視点からモーツァルト像を浮き彫りにします。講座は、音楽を文化・社会の文脈から扱うスペシャリスト5名がリレー方式で担当。毎回異なるユニークなテーマにご期待下さい。きっと新しいモーツァルト像に出会えるでしょう。

第1回 (10/19)	教科書の中のモーツァルト
講 師	高松 晃子(聖徳大学人文学部音楽文化学科教授)
概 要	日本初の学校音楽教科書『小学唱歌集』(全3編、1881～1884)に、モーツァルトの曲が採用されているのをご存知ですか？《魔笛》のアリアが〈誠は人の道〉という唱歌になっているのです。以来、教科書にモーツァルトは欠かせません。学校にモーツァルトがどんなふうが登場し、どのように教えられてきたのか。音楽室に貼ってあった肖像画を思い出しながらお楽しみください。

講師プロフィール	お茶の水女子大学大学院修了。博士(人文科学)。福井大学助教授を経て現職。専攻は音楽学。著書に、『スコットランド 旅する人々と音楽』、『はじめての世界音楽』(いずれも音楽之友社)、など。
----------	--

第2回 (10/26)	モーツァルト療法のウソホント
講師	村井 靖児(聖徳大学人文学部音楽文化学科教授)
概要	<p>モーツァルト愛好者は日本人に多いようです。それは、モーツァルトの音楽から様々な恩恵を得ているからでしょう。今風に言えば、「癒されている」。ただ、モーツァルトの音楽をわからない人、嫌いな人にも癒しは来るのでしょうか。モーツァルト・ファンの中には、モーツァルトが療法になることを好まない人もいることでしょう。まずはモーツァルトに聞いてみてはいかがでしょうか…。</p>
講師プロフィール	慶應義塾大学医学部卒業、東京藝術大学音楽学部楽理科卒業、同大学院修士課程修了。専攻は日本音楽史、精神医学、音楽療法。医学博士。著書に『音楽療法を語る－精神医学から見た音楽と心の関係－』など多数。

<p>第3回 (11/2)</p>	<p>切手が語るモーツァルト文化史</p>
<p>講師</p>	<p>水垣 玲子(聖徳大学人文学部音楽文化学科教授)</p>
<p>概要</p>	<p>切手は、世界中の様々な文化を私たちに垣間見せてくれます。祖父、父から引き継いで、私が切手の収集をはじめたのは小学生の頃でした。現在でも音楽に関する切手に絞って細々ながら続けています。今回はそんな小さな音楽切手の数々をご紹介します。モーツァルトとその周辺の世界を覗いてみましょう。モーツァルトの切手からどのような音楽が聞こえてくるでしょうか。</p>
<p>講師プロフィール</p>	<p>お茶の水女子大学卒業後、ロンドンでパイプオルガンのディプロマ取得。著書・訳書に『エレクトーンのための基礎トレーニング』『音楽と女性の歴史』など多数。SOA 公開講座「オルガンへの誘い」はすでに11年目。</p>

<p>第4回 (11/9)</p>	<p>モーツァルトと子どもたち</p>
<p>講師</p>	<p>泉 靖彦(聖徳大学人文学部音楽文化学科教授)</p>
<p>概要</p>	<p>子どもたちは神童モーツァルトをどの程度知っているのかな？ 映画「アマデウス」や自らの合唱体験に郷愁を抱く大人と違い、クラシックに触れる機会のない現代っ子のモーツァルト人気はどうでしょう。今回は、私が45年以上関わってきた少年少女合唱隊の軌跡を紐解き、珍しい小品を皆さんとともに味わい鑑賞しながら、モーツァルトと子どもたちについて立体的にご案内します。</p>

講師プロフィール	東京赤坂出身。教職の傍ら東京少年少女合唱隊を指導。パリ国営テレビ、ローマ法王御前演奏、1997年「フランスに於ける日本年」に招聘され団長を務めた。東京少年少女合唱隊 LC 基金会長。音楽教育振興会理事。
----------	---

第5回 (11/16)	ウィーンの100年を結ぶ2人の“M” ～モーツァルトからマーラーへ～
講師	山本 まり子(聖徳大学人文学部音楽文化学科助教授)
概要	ウィーンの音楽界を席卷した2人の“M”—モーツァルトとマーラー。2人の天才が音楽生活を送ったウィーンは、100年の間にめまぐるしい変貌を遂げました。シューベルト、ベートーヴェン、ブラームスといった作曲家たち…。モーツァルトの築いた文化遺産はどうなったのか、人々のコンサート・ライフはどのように変化していったのか。音楽社会の流れを感じてください。
講師プロフィール	国立音楽大学、お茶の水女子大学大学院、ハンブルク大学(DAAD 奨学生)で声楽と音楽学を修める。博士(人文科学)。N響解説員、お茶の水女子大学と東京学芸大学の講師を歴任。専門はドイツ語圏の声楽作品研究。